

## 森のいきもの案内人 ピッキオ (長野県軽井沢) 冬の森に学ぶいきものたちの経済学 「野鳥の森ネイチャーウォッチング」開催

ピッキオの定番ガイドツアー「野鳥の森ネイチャーウォッチング」の2016年冬のテーマは「いきものたちの経済学」。森の動植物はコストを計算し、最適の戦略を選択して、厳しい冬を生き延びようとしています。森を歩きながら、静寂の冬景色に秘められた“経済学”に触れてみませんか。



### ◆混群のメンバー◆

上段左から、コガラ・ヤマガラ、ヒガラ、  
下段左から、コゲラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ



### こんぐん

## 混ざって群れてリスクマネジメント 「小鳥の混群」

冬になると、異なる種類の鳥たちが、ひとつの群れになって日中をすごします。これを「混群(こんぐん)」と呼びます。混群の利点は主に2つ。ちなみに混群に出会えば、**1度にたくさんの種類の野鳥を見られるので、ちょっと得した気分**です。

### 1. 食べ物の発見に有利

混群のメンバーは食料さがしの得意分野が異なります。一緒にすごせば、普段は得られない食べ物を見つけるチャンスに恵まれます。

### 2. 天敵の発見に有利

群れの誰かが天敵に気づけば、みんなで逃げることができます。襲われた場合は、「自分ではない誰かが食べられるだろう」というリスク回避にも…。

## 単年度回収か？長期回収か？「落葉樹と常緑樹」

軽井沢の木々の多くは、冬に葉を落とします。これは「低コスト& 短期回収タイプ」。春に低コストの葉(薄い)をたくさん作って光合成をし、冬までに落葉。単年度で投資を回収します。一方で、「高コスト& 長期回収タイプ」は常緑針葉樹です。クリスマスツリーのモミの木は、その代表選手。丈夫で厚い葉を数年に渡り使い続けます。葉っぱを触ると戦略の違いが分かります。

## グローバルに対応する「渡り」じっと我慢の「冬眠」

「寒い場所でごんばらない」という選択肢もあります。野鳥が南方に移動する「渡り」もそのひとつ。エサ資源がないなら、ある場所に移動しようというわけです。ツキノワグマやコウモリなどは、「冬眠」によって消費カロリーを押さえます。軽井沢のクマは、12月～4月頃までの約5ヶ月間を冬眠してすごします。

【開催日】2016年12月1日～2017年3月31日  
【時間】10:00出発12:00まで  
【料金】大人2,100円/4歳～小学生1,000円

### ■ピッキオ

「森本来の姿を経済的な価値として高く評価できれば、未来に森を残していく」という理念の下、軽井沢を拠点に、野生動植物の調査およびツキノワグマの保護管理、自然の不思議を解き明かすエコツアーを行っています。

〒389-0194長野県軽井沢町星野 TEL 0267-45-7777

<http://picchio.co.jp/sp>

### 【このリリースに関するお問合せ】

星野リゾート グループ広報  
TEL:03-5159-6323 FAX:03-6368-6853  
mail:pr-info@hoshinoresort.com

# 意外？「冬こそバードウォッチング」

実は、冬は春に次いで、バードウォッチングに適した季節です。

## 【理由1】 葉っぱがなくて見通しが良い

標高1000メートルの軽井沢では、冬になるとほとんどの木は落葉するので、森の中の見通しがすばらしく良くなります。そのため、夏は葉が茂って見えなかった小鳥の姿も、しっかりと見ることができるのです。

## 【理由2】 渡り鳥がやってくる

シベリアなどの北方や国内のより標高が高い場所から、冬の渡り鳥がやってきます。シベリアよりは軽井沢の冬の方が、まだ過ごしやすいのですね。オオマシコやベニマシコなど、冬ならではの野鳥との出会いを楽しむことができます。



【アカゲラ】 キツツキの仲間。「ピッキオ」とはイタリア語でキツツキのこと

## 「バードキャビン」で小鳥を間近に

「野鳥の森ネイチャーウォッチング」の散策路の途中に、手が届きそうなほど間近で小鳥を観察できる「バードキャビン」を設置しています。小鳥専用体重計で、驚くほどに軽い小鳥の体重を知ることができます。



体重計に乗ったシジュウカラ。その体重は、わずか15グラム前後です。



【ウソ】 冬の渡り鳥。ふっくらとした容姿と口笛のような鳴き声が愛らしい

## スノーブーツで防寒も万全

冬の森を満喫するためには、防寒をしっかりと。「野鳥の森ネイチャーウォッチング」に参加される方は、スノーブーツや手袋、ニット帽のレンタルを無料でご利用いただけます。(大人サイズのみ)



【オオマシコ】 冬の渡り鳥。輝くようなバラ色はバードウォッチャー憧れの的

## 軽井沢野鳥の森

1974年に指定された国設の野鳥の森で、クリやミズナラ、カラマツなどが茂る約100haの敷地には、年間約80種類の野鳥の他、ツキノワグマやニホンカモシカ、四季折々の草花など、多くの野生動植物が息づいています。